

第5回 障がい福祉計画策定専門部会 議事録

●日 時：平成30年2月1日(木) 18時30分～19時30分

●会 場：まちきた大通ビル7階 H会議室

●出席者：【委員】10人（三浦委員、伊藤委員、白幡委員、岩間委員、阿部委員、高橋委員、斉藤委員、石澤委員、工藤委員、天羽委員）

【事務局】10人（大栄部長、吉田参与、土井次長、水落課長、鈴木課長、桑島課長、三輪係長、佐藤係長、近藤、日野）

第5回障がい福祉計画策定専門部会で出された意見等

★資料1 第5期障がい福祉計画（素案）に対する意見募集の結果について

（委 員） 前回は話題に上がったが、相談支援について、35名までと言われるようになると、さらに支援をしにくくなってしまう。

（座 長） 本年4月からとされているが。

（事務局） 35件というものがひと月あたりの件数となるのか、未だ明確になっていない。公表がなされ次第、随時情報提供していく。

（委 員） 厚生労働省からの情報によれば担当1人あたり35件まで、という内容を見た。

（委 員） 6か月平均で割り返すと1か月当たり35件となるのか、北見市の利用者においてモニタリングは6か月に1回という方も多い。

（委 員） 35という数字から多少の増減は認められることと思うが、いずれにしても現状としてはかなり厳しい。ただ上限という縛りを付け、単価を下げた形。1つの事業所が閉鎖に追い込まれた現状もあるので、これに続く事業所が出なければ良いのだが。

（事務局） 確かに事業所が1つ閉鎖したが、1つ増えたところ。以前は大分、北海道にも依頼をしてきた経過がある。報酬についても様々な議論がな

されているところである。精神疾患患者は、1日のなかでも何度も電話をかけてきてしまったりするため、介護と全く同じベースにするわけにはいかないと思っている。

(座 長) これにて市としての方針は示されたように思う。本結果の公表はいつ頃を予定しているか。

(事務局) 本日より約1週間後を想定しています。

(委 員) 最後に文面の「ご意見は参考にさせていただきます。」というところは、なんだか冷たい感じがするのだが、いかがか。

(事務局) そう思われるのであれば、この一文を無くしたほうが良いだろうか。削ってしまうと逆に冷たい印象を与えるのではという危惧がある。

(委 員) 確かに私も少し冷たい印象を感じた。「そう思われるのであれば、この一文を無くしたほうが良いだろうか。」「ご意見を参考にさせていただきます。」に変更すると印象が柔らかくなるのでは。

(座 長) 他の計画とのバランスもあるでしょうから整えてほしい。

(事務局) 個別過ぎる形になってしまうと良くないので、大きく捉えていきたい思いがある。内容について了解した。

★資料2 北見市における就労継続支援A型事業所の必要利定員総数について

(委 員) 資料により「1か月当たりの最大利用可能人数 5,550 人日/月」とあるが、こんなにもキャパシティがあるのか。

(事務局) キャパシティはある。計算すると、185人という定員をフルに利用した場合としている。

(委 員) 30日として計算しているのが良くないと思う。もっと少なくしたほうが良いようにも思うのだが、いかがか。

(事務局) 概ね毎日としての、あくまでも目安である。

(委 員) 建設業でも週休2日となりつつある現状を踏まえると、もっとキャパ

シティを大きくしても良いのでは。

(事務局) 報酬改定等も行われた場合は確かに不足の印象もある。事業所の種類(幅)は増やしたいが、過度に増やすということは良くない。就労支援しているうちに一般就労へ移行するケースもある。こちらも目安として様子を見ながらやっていきたい。

(委員) 農業が人手不足の問題がある。幅を広げて農業も加わると、もっと利用が増えるかもしれない。難しいことは承知しているが働きかけていきたい。

(事務局) 北見市のみならず圏域で足並みを揃えていく必要がある。事業所の幅についてはお願いしていくしかない。

(委員) 先日運営に関する研修に参加した。事業所の幅を増やす意味では、例えば同じ種類の事業所が名乗り出た場合、市としてこれ以上同じ種類が必要でないこともあると思うが、調整出来ないのでは。北海道では書類さえ整っていれば全て受け付けていくとの意向であった。

(事務局) 確かに書類は受け付けられることと思うが、その後適正かどうかを判断していく必要がある。

(委員) 事業所を開設したは良いが、工賃も払えない事例もあるようだが。

(事務局) 事業所を開設したいとの話があれば、まずは本体事業を軌道に乗せるよう助言している。そのために1年かけて軌道に乗せ、上手くいっているケースもある。

(座長) 北海道も北見市もすぐにシャットアウトするという意味合いではないということと理解する。

★別冊 第5期北見市障がい福祉計画(案)について

(事務局) これまでに4回開催いたしました当専門部会ですが、50ページ以降に策定経過を掲載している。今後北見市議会、社会福祉審議会を経て報告していくこととなる。

(委員) 評価はどのようになされるのか。

(事務局) 今後、ネットワーク会議で実施する。

了